

学区の人たちに支えられ、心豊かに育つ子供たち

5月～1月(25時間)

1 はじめに

4月、5年生に進級した子供たちから「お米って、いつから作り始めるの。」と聞かれることが何度もあった。子供たちにとって、5年生の総合の学習ではお米作りをするという感覚があるように感じた。しかし、ほとんどの子供たちは田植えの経験すらない全くの素人である。そして、5年の担任も子供たちと大して変わりのない経験と知識しかない。

そこで、昨年に引き続き、今年の5年生の総合の学習の時間も学区の老人クラブの方たちに教え、協力していただきながら進めていきたいと考えた。子供たちにとって、学区の老人クラブの方たちから米作りを教えていただくことは、知識や方法を教えていただくだけではなく、学区の方たちと一緒に過ごす時間を持ち、触れ合うことにもつながる。学区の方たちとの触れ合いを通して、もっと学区の良さを知り、学区の方たちに支えていただいていることに気づくことができると考え、本実践を行った。

2 実 践

(1) はじめよう米作り

①バケツを使って

ゴールデンウィークが明けた5月の第2週目、子供たちはそれぞれに15リットルサイズぐらいのバケツを持って登校した。いよいよ、バケツ稲作りのスタートである。事前に老人クラブの方と連絡を取った際、「稲の栽培には、土と水が大切である。」とアドバイスをいただき、学校のすぐ隣の田んぼから土をいただける手はずを整えていただいた。

子供たちはバケツを手に取り、田んぼの真ん中で、老人クラブの方たちに土を入れていただいた。その後、学校にもどり、バケツにしっかり水を入れて土をこね、バケツの底の方まで空気が入るようにした。これは、田んぼで行う代かきとの代わりになったようである。子供たちの中には、田んぼの土を見て、運動場の土とは色や匂い、手ざわりが違っていたことに気づいた子が何人もいた。老人クラブの方に聞いたところによると、「田んぼの土には、栄養がたくさん入っているから」とのこと。子供たちはとても納得した。

②ミニ田んぼで代かき

今年は、運動場わきにたたみ2畳ほどのミニ田んぼにも挑戦した。教頭先生たちに枠を作ってもらいビニールシートの中に、学区の方から田んぼの土をいただいて完成した。

そして、バケツの時と同じように水を入れた後で、子供たちがみんなで代かきをした。バケツ一杯分の土を手でこねたときとは違い、手も足も泥だらけになってミニ田んぼの土をかき混ぜるという経験をする事ができた。ミニ田んぼに入ったときは、「なんか気持ち悪い。」と言っていた子供たちだったが、代かきしているうちに「田んぼの土って、すべすべだね」と言いながら楽しそうにしていた。

(2) 準備完了! さあ、田植えをしよう

バケツに土を入れて1週間後、学校に米の苗が届いた。老



学区の方から土を入れてもらう子供たち



ミニ田んぼの代かきをする子供たち



苗の持ち方を教えてもらう子供たち

人クラブの方たちが専業農家を営んでいる学区の方から分けていたものである。

子供たちは、「苗は、3、4本ぐらいをいっしょに植えるらしい。」「苗を植えるときは浅すぎてもだめだし、深すぎてもだめって書いてあったよ。」など、事前に田植えのコツについて、家族や親せきに聞いたりインターネットで調べたりして田植えの準備をしてきた。

しかし、初めて本物の苗を手にした子どもたちも多く、なかなかバケツに植えることができなかつた子も見られた。中には、何度も老人クラブの方たちに質問したり、手ほどきを受けたりしながら田植えをする子もいた。事後の感想には「目の前でやってもらったら、苗の持ち方がわかりました。」とか「指の2番目の関節ぐらいまで入れると、植えるのにちょうどいい深さみたいです。」とあった。

(2) 稲を守るために

今年の夏はとても暑かった。そのせいか、バケツの中の水もすぐになくなってしまいうほどであった。そんな中、「バケツの水のなくなりが速くなってるぞ」とか、「そろそろ中干しをしたほうがいいぞ」などのアドバイスを下さっていたのは、老人クラブや地域の方々だった。

また、夏の終わりごろ、「そろそろ鳥よけの網をかけたほうがいいよ」と教えてくださったのも地域の方だった。子供たちは夏休み中だったので、老人クラブの方と職員でバケツ稲とミニ田んぼの周りに防鳥ネットを張った。

子供の中には、部活動のために登校するごとにバケツの稲の様子を気にする姿も見られた。すぐに防鳥ネットに気づき、「スズメ除けは、だれがやってくれたんですか。」と聞いてきた子もいた。

(3) 収穫・お礼の会

10月の末、米の収穫をした。このときも老人クラブの方たちに来校していただき、鎌の使い方や稲の束ね方などを教えていただいた。

子供たちの育てた米は全部で2升ほどだった。しかし、自分たちの育てた稲が米になったことがうれしかった子供たちから、「お米が取れたことと手伝ってくれた人たちにお礼がしたい」という案が出てきた。1月27日に「収穫・お礼の会」で餅つきをすることになった。

子供たちは、クラスを飛び越えて、4つのグループに分かれて準備を始めた。それぞれのグループは、活動をするごとに各クラスで活動報告をしたり、クラスのみんなでアイデアを出し合ったりした。

収穫・お礼の会当日、いつもよりたくさんの老人クラブの方たちが餅つきの手伝いをしに来てくれた。学年全員が順番に餅をつき、米が育ったことを実感することができた。

お礼の会では、米づくりに協力してくださった老人クラブの方たちや、土を下さった方たちに来ていただきメッセージと歌のプレゼントをした。お世話になった方たちが喜んでくださった様子を見た子供たちもうれしそうだった。

3 おわりに

子供たちが収穫した米は、当初の予想よりもずいぶん少なかった。しかし、子供たちは米作りを通して、世話をして育てることの大変さと学区の老人クラブの方たちが手伝ってくださったからこそ米の収穫ができたことを知ることができた。また、登下校の時には学区にある田んぼの様子と自分のバケツ稲を見比べる姿も見られた。

収穫・お礼の会後の日記には、「老人クラブの方たちといっしょに活動ができて、思い出がたくさんできた。」と書いてあった。

収穫・お礼の会・準備

- ① **道具の準備チーム**・・・うす、きね、餅つき機を借りるためのチラシ作り。餅つきに必要な道具調べ。
- ② **餅の付き方のコツチーム**・・・きねの持ち方とつくときのタイミングのコツ調べ。
- ③ **おいしい餅の食べ方チーム**・・・餅の食べ方や味付け決めと材料調べ。
- ④ **お礼の会チーム**・・・お世話になった方たちに来ていただくための招待状作り。お礼のプレゼント作り。



老人クラブの方との餅つき



お礼の会での老人クラブの方と子供たち